



世界の ミカタタイムズ



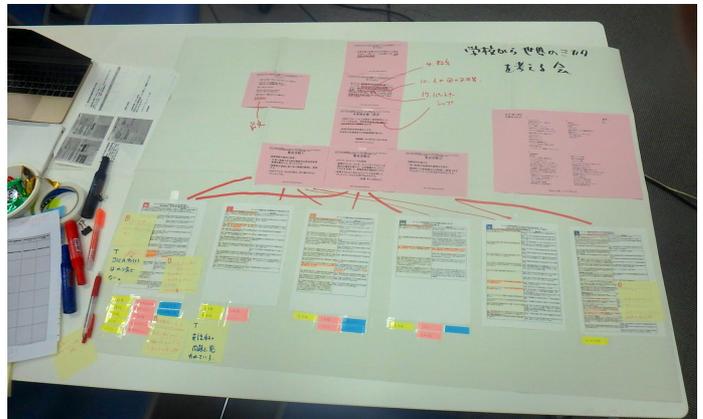
発行：学校から世界のミカタを考える会

GW = グローバルウィーク！ よしっ！世界のことを考えよう。

SDGs達成のために私たちができること

最近、本当に「SDGs」を耳にする機会が増えましたね。これを読まれている皆さんの学校や企業、地域ではSDGs達成のための取り組みは行われていますか？

4月21日に「SDGsをチャンスに変える他セクター連携方針／計画づくり実践研修」に参加させていただきました。主催JICA東京、企画・運営JANICという、なかなか九州では開催されない規模の大きな研修でした。事前課題も含めて当日の内容もしっかりと作り込まれていて、非常に有益な時間を過ごすことができました。



研修を通じて、当会で作成したSDGsツリー

当会ではまだ世間ではほとんどSDGsの名前が聞かれない頃から「SDGs達成のために何ができるだろうか」という議論は何度か行っていました。しかし、なかなか具体的なアクションに移せていませんでした。

今回の研修を通じて、SDGsと団体の関係性をかなり具体的な部分まで整理することができました。次は12月に東京で開催される予定の「SDGs DAY」で有益な実践報告ができるように、これから具体的な行動を起こしたいと思います。

開催地が佐賀ということで、これまで存在は知っていたものの深く話したことがない団体とも意見交換をすることができました。地球規模な課題に向き合うためグローバルなアクションが求められていますが、そのファーストステップとして「オール九州」の連携も必要だなと実感しました。

Leave no one behind. (誰一人取り残さない)

Put the last first. (最後の人を最初に)

SDGsを共通言語に、必ず市民セクターの力で実現しましょう。



育休と一ちゃん、「社会のミカタ」を語る！



第一話：日本を救うのは、育休と一ちゃんかもしれない。

はじめまして！4月から育児休業中のと一ちゃん（36歳）です。本年度のわが家は、かーちゃんが働いてと一ちゃんが専業主夫です。「男性で育休？」と驚かれる方も多いでしょう。実際に日本人男性の育休取得率は約3%（平成28年度雇用均等基本調査/厚生労働省）で、これは国際比較をしてもかなり低水準です。かといって「日本は男性の育休が少ないからダメだ」と短絡的に批判することもできません。国ごとに社会構造や価値観が異なるので、違って当たり前なのです。ただ、今のこの日本の社会構造において、男性の育休はもっと認められても良いのではと私は思っています。

ちょっとだけ、日本の社会構造の話をさせてください。この国は「超少子高齢化」が進行しています。また、国の借金は国民一人当たりで考えると850万円にも膨らんでいます。

どうということかという、社会の支えである働き手がいなくなるんです。ただでさえ借金まみれの国なのに税金がなくなるんです。大量の高齢者が増えてきます。介護の問題もあります。子どもは減っているのに、都市部では待機児童の問題だってあります。そんな時のための公的サービスのはずが、金がないので、それも限界を迎えます。そして、ますます問題が加速します。

私たちが柔軟に対応できなければ、日本は持続不可能な社会構造になってしまっているのではないかとさえ感じます。

どうでしょうか？いささか短絡的ではありますが、子育ての問題、介護の問題などを解決するためにも、男女関係なく「家庭のために休むこと」に寛容な社会が今必要だと思いませんか？

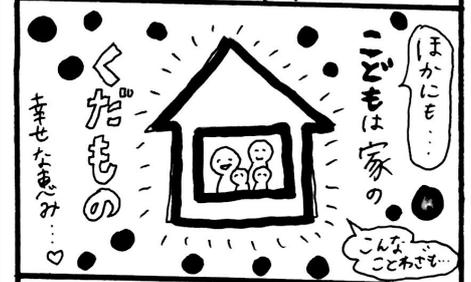
ただ、「社会制度が悪い」「職場の風土が悪い」などと批判しても何の解決にもなりません。

大事なことは自分が行動できるかです。私自身今の立場になるまで育休を自分が取得することなんて考えてもみませんでした。

収入はなくなりましたが（休暇ではなく休業なので）、お金には変えがたい価値があると信じて、まずは我が家の生活からこの社会の持続可能性について考えていきます。

「ことわざとくだもの」

ミカタマンガ！



オモテ面でとりあげたSDGs研修に参加するにあたって、私たちのミッションについてメンバーで整理し直しましたのでご紹介します。

MISSION

私たちは、学校教育や社会教育を通じて、
 全ての人々が、自分のよさや可能性を認識するとともに、
 あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、
 多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、
 豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手へと変革するために主体的に活動します。



上のQRコードからサイトに飛べますよ。
 バックナンバーも読めるので、ぜひ訪問してね！